



農福連携



推進マニュアル

～障がい者が農業の多様な担い手として活躍するために～



株式会社アグリピア(海津市)

農福連携は、農業の担い手減少・高齢化、繁忙期の人手不足など農業サイドが抱える課題と、
就労の場の確保、工賃向上など福祉サイドが抱える課題を、
農業・福祉の両サイドが連携し、
農業分野での障がい者等の就労の場づくりを通して解決しようという取り組みです。
農作業の受委託や特別支援学校の実習受入など、できることから始めてみませんか。



平成30年9月

一般社団法人岐阜県農畜産公社(ぎふアグリチャレンジ支援センター)

はじめに

農福連携とは

農業者や農業団体等の農業サイドと、社会福祉法人やNPO法人等の福祉サイドが連携して農業分野における障がい者等の就労を推進する取り組みの総称です。

農福連携は、地域における障がい者等の就労、生きがいや介護予防の場となるだけでなく、高齢化や担い手不足といった問題を抱える農業・農村にとっても、担い手の確保や地域農業の維持、更には地域活性化にもつながり、より一層の推進が求められています。

岐阜県では、平成30年4月、一般社団法人岐阜県農畜産公社内に、農福連携のワンストップ総合窓口となる「ぎふアグリチャレンジ支援センター農福連携推進室」を設置し、推進に努めています。

取り組みにはさまざまな形態があります

障がいの種類(身体、知的、精神等)や程度によって、農業分野における適性は一人ひとり異なります。主に次の3つの形態により障がい者の就労拡大を進めています。

①農業経営体による障がい者の一般雇用(一般就労)



②農業経営体と障がい者施設の農作業受委託(福祉的就労)



③障がい者施設の農業参入



障がいのある人もない人も共に生きる社会づくり「共生社会」の実現を

農業の貴重な担い手、パートナーとして障がい者と一緒に農福連携に取り組んでみませんか。

目次

はじめに	1	先進事例	
農業経営体における障がい者の受け入れの進め方	2	ナブテスコリンク株式会社	12
障がい者施設における農業参入の進め方	3	三宝化学工業株式会社揖斐川食品事業所	12
障がい者の受け入れのポイント	4	株式会社飛騨高山きのこの里	13
農作業の切り出し、障がい者が作業する際の留意点		株式会社アグリピア	13
トマト 収穫作業、調製作業	5	社会福祉法人たんぽぽ福祉会	14
いちご 収穫作業、苗受け作りポット土詰め	7	支援機関一覧	
ほうれんそう 調製作業	9		
菌床シイタケ 調製作業	11		

農業経営体における障がい者の受け入れの進め方

1 まずは体験してみましょう

障がい者の受け入れを、まずは体験してみませんか。形態は、障がい者の雇用、障がい者施設への作業委託があります。

＜活用できる主な支援制度＞

支援制度	窓 口	内 容	助成額	実施主体
障がい者農の雇用モデル支援事業(受入体験助成)	(一社) 岐阜県農畜産公社	障がい者の受入体験として、農業経営体が障がい者個人に支払う賃金又は福祉事業所に支払う作業委託料金を助成 期間:5日以上30日以内	定額(支払相当額を助成)	農業経営体
岐阜県障がい者チャレンジトレーニング事業	障害者就業・生活支援センター	障がい者の現場実習として、農業者に対し謝金、障がい者に対し手当を支給 期間:10日以内	農業者:1,000円/人・日 障がい者:1,000円/日	農業経営体 障がい者



2 本格的に障がい者を受け入れるには

(1) 農業経営体による障がい者の一般雇用(一般就労)

●ステップ1＜求人募集＞

- ・最寄りのハローワークに相談しましょう。ハローワークでは、障がい者を対象とした求人の申込を受け付けています。
- ・特別支援学校の生徒のインターンシップ受け入れや、障害者就業・生活支援センターとの連携も有効です。

●ステップ2＜試行雇用＞

- ・障がい者を試行雇用することにより、その適性や能力を見極め、継続雇用への移行のきっかけとします。

＜活用できる主な支援制度＞

支援制度	窓 口	内 容	助成額	実施主体
障害者トライアル雇用助成金	ハローワーク	障がい者の試行雇用に対する助成 期間:原則3か月～6か月以内	4～8万円/月・人	農業経営体

●ステップ3＜継続雇用＞

- ・障がい者を継続して雇用することで、雇用就農者として農業の新たな担い手となります。

＜活用できる主な支援制度＞

支援制度	窓 口	内 容	助成額	実施主体
特定求職者雇用開発助成金	ハローワーク	障がい者の継続雇用に対する助成 期間:2～3年	40～80万円/年・人	農業経営体

(2) 農業経営体と障がい者施設の農作業受委託(福祉的就労)

●ステップ1＜障がい者施設とのマッチング＞

- ・ぎふアグリチャレンジ支援センター又は最寄りの農林事務所農業普及課に相談しましょう。農業経営体の委託希望作業と受託可能な障がい者施設とのマッチング支援を行います。

●ステップ2＜作業受委託契約＞

- ・委託作業の量、内容、出来高などから障がい者施設と協議の上、委託料を設定します。
- ・就労継続支援A型事業所との作業受委託契約の場合、最低賃金(時給)以上の支給が基本となります。同B型事業所との場合は、作業量や出来高に応じて障がい者施設との協議により単価を設定することとなります。例えば、時給800円のパートが、1時間に100袋仕上げることができる調製作業の場合、1袋あたり8円とし、事業所が何人で作業しても100袋納品すれば800円と設定する等です。

障がい者施設における農業参入の進め方

1 まずは農作業を受託してみましょう

農業経営体から障がい者施設への作業委託があります。利用者が農業就労を希望する場合は、ハローワークに相談しましょう。

●ステップ1＜農業経営体とのマッチング＞

- ・ぎふアグリチャレンジ支援センター又は最寄りの農林事務所農業普及課に相談しましょう。受託可能な障がい者施設と委託希望作業がある農業経営体のマッチング支援を行います。

●ステップ2＜作業受委託契約＞

- ・受託作業の量、内容、出来高などから農業経営体と協議の上、受託料を設定します。
- ・その後の手続きは、2ページ「農業経営体における障がい者の受け入れの進め方2(2)のステップ2」と同様です。

＜活用できる主な支援制度＞

支援制度	窓 口	内 容	実施主体
障がい者農業就労支援サポーターの派遣	(一社)岐阜県農畜産公社	・初めて業務委託を受けたり、農業参入する等の障がい者施設に対し、障がい者の作業支援をする就労サポーターを派遣 ・1事業所あたり年10回まで	障がい者施設

2 本格的に農業に参入するには

●ステップ1＜営農計画の策定＞

- ・いつ、どこで、何を、どのように生産し、どこで、どのように販売するか、綿密な営農計画を策定しましょう。営農計画の策定にあたっては、ぎふアグリチャレンジ支援センター又は最寄りの農林事務所農業普及課に相談しましょう。

●ステップ2＜農地の確保＞

- ・農地の確保には、農地所有者の合意を得たうえで、農地中間管理機構事業の活用や、農地法などに基づく権利設定が必要となります。ぎふアグリチャレンジ支援センター又は最寄りの市町村農業委員会に相談しましょう。

●ステップ3＜機械・施設の整備＞

- ・農業を開始するためには、機械・施設等の生産基盤を整備するなど初期投資が必要となります。本格的に農業経営を開始する場合は、農業経営基盤強化促進法に基づく「認定農業者」になれる可能性もあります。認定農業者制度については、最寄りの市町村に相談しましょう。

＜活用できる主な支援制度＞

支援制度	窓 口	内 容	補助率	実施主体
農山漁村振興交付金(福祉農園等整備事業)	東海農政局	福祉農園等の開設及び充実に必要となる施設等の新設、補修又は改修に対する助成	1/2以内	障がい者施設等

※障がい者農業就労支援サポーターの派遣制度も利用できます。



障がい者の受け入れのポイント



1 障がい者と働く職場づくりのポイント

(1) 仕事や職場のルールを明示しましょう

安全・衛生管理や秩序・規律維持のために必要なルールは、口頭で伝えるだけでなく、掲示するなどして、いつでも全員が見えるようにします。

(2) 作業工程を細分化しましょう

障がい者に限らず、複雑な作業よりも単純な作業の方が対応しやすいものです。農業経営体が知識・経験に基づき行う一連の作業も、複数の作業に分割し単純化することで作業しやすく、作業指示も容易になります。

(3) 経験に基づく判断基準を見える化しましょう

収穫を判断する色味や、調製仕分けの大きさ、重さの範囲など、経験によるあいまいな基準は、色見本やスケールを作成し、これと対比することで判断しやすくすることができます。

(4) 支援や相談ができる仕組みをつくりましょう

従業員をOJT担当に充て、障害者就業・生活支援センターとも連携してサポートしている事例があります。専任担当者がいなくても、近くの従業員が日常的に話しかけ、気軽に相談できる雰囲気づくりも有効です。

(5) 安全で快適な職場環境をつくりましょう

生産現場の整理整頓や段差解消、休憩室やトイレの整備などは、障がい者に限らずより安全で快適な職場環境につながります。

<活用できる主な支援制度>

支援制度	窓 口	内 容	補助率(上限)	実施主体
障がい者農の雇用モデル支援事業(農業施設改修助成)	(一社) 岐阜県農畜産公社	障がい者の作業環境改善(バリアフリー化・安全性の確保・作業の効率化)を目的とした機械器具の購入、機械施設の簡易な改修	1/2以内(50万円)	障がい者を受け入れている農業経営体、農業参入する障がい者施設

2 障がい者とのコミュニケーションのポイント

(1) 相手の人格を尊重し、相手の立場に立って対応しましょう

思い込みや押し付けではなく、相手の意思を確認し、同じ高さに目線を合わせ、明るく、丁寧に、わかりやすく対応します。また、子ども扱いした言葉は使わないようにします。

(2) 障がい特性を理解しましょう

障がいの種類、程度や症状は一人ひとり異なるので、配慮が必要な内容はそれぞれ違います。外見ではわからないことも多いので、どういう配慮が必要かは個別に確認し、職場で共有します。

(3) 特別扱いはしないようにしましょう

障がい者を受け入れている企業インタビューで耳にするのが特別扱いをしないということです。障がいのあるなしにかかわらず、全員が仲間というスタンスが重要です。

(4) 感情的に叱らないようにしましょう

感情的に叱りつけることで、それ以降コミュニケーションが取れなくなったり、その作業ができなくなったりすることがあります。何がいけないのか丁寧にわかりやすく説明し、理解してもらうことが重要です。

(5) 休憩・服薬の声掛けをしましょう

作業に集中し、休憩も取らずに続けることもあるので、休憩や服薬の声掛けをすることが必要です。

農作業の切り出し、障がい者が作業する際の留意点

作業を細分化、単純化する「切り出し」を行い、さらに作業方法を工夫することで、障がいのある方もない方も働きやすくなります。特に知的障がい者は、工程の多い複雑な一連の業務よりも、単純作業を繰り返す業務に高い適性を発揮することが多く、日常業務を障がい者が担うことで生産性の向上も可能になります。

また、作業指示がしやすくなったり、潜在化している無駄や危険性が明らかになることで作業効率が向上します。

農作業の切り出しは、個々の作業環境や品目等によって異なりますが、今回、県内の主要品目のうち4品目において事例調査を行いました。個々の農作業の切り出しの参考にしてください。

作物名 トマト 作業名 収穫作業

服装 作業服、ビニール手袋、軍手(ビニール手袋の上に重ねてはめる)、帽子

(取材協力:岐阜県就農支援センター)



準備



- ①ハウス内で作業台車にコンテナを2個横置きする
- ②作業台車に置いたコンテナの中にクッションシートを敷く
- ③作業台車の押手にトマトクリップなどでビニール袋を留める
- ④仕切用のクッションシートをトマトクリップなどで数枚台車の押手に留める

障がい者が作業する際の留意点

- ・作業台車へコンテナを置く場所には、絵や写真などでその置き方を図示する
- ・作業台車には、ビニール袋とクッションシートを留める位置にそれぞれトマトクリップと同じ色のテープなどを貼り、分かるようにする

もぎ取り



- ⑤作業台車を押して進む
- ⑥トマトを下側から上側に観察し、色味で収穫可能な果実を選ぶ
- ⑦トマトを手のひらで包むように斜め下から持つ
- ⑧トマトの柄(果梗:かこう)にできている節(くの字の部分)に親指をあて、くの字と逆方向にトマトを持ち上げてもぎ取る(軸が太くて手でもげない場合は、ハサミでカットする)

障がい者が作業する際の留意点

- ・時期により、収穫するトマトの色が異なるので、その都度、カラーチャートのような色見本表などを準備して各々首にかけるようにする
- ・毎回色の指示が必要

収穫時の調整



- ⑨トマトに残った果梗をハサミでカットする
- ⑩ヘタ側を下にして一方の手で受け、トマトの尻側の花ガラをもう一方の手でなでて取る
- ⑪割れ、過熟、落果(捨てるもの)は台車の押手に留めてあるビニール袋に入れる
- ⑫トマトの大きさを見て、台車に載せてあるコンテナに並べる
- ⑬コンテナにトマトを1段並べたら、台車の押手に留めてあるクッションシートをトマトの上に敷き2段目を並べ始める

障がい者が作業する際の留意点

- ・トマトの大きさ(大・小)の基準となるスケールを台車につけておく
- ・台車に載せた2つのコンテナは色分けし、大きさごとに分けて並べるようにする
- ・コンテナへのトマトの並べ方や割れ、過熟などの不良果を写真で示し、首にかけるようにする

収穫時の片付け

- ⑭切れ葉や枯れ葉などがあれば、台車の押手に留めてあるビニール袋に入れる
- ⑮台車に載せた2つのコンテナ(手前又は奥)のいずれかが一杯になったら(2段積んだら)、作業台車を指定場所まで運ぶ
- ⑯指定場所へ着いたら、一杯になったコンテナだけ作業場の指定場所へ積む

障がい者が作業する際の留意点

- ・指定場所が分かるように、床にカラーテープなどで目印をつける
- ・コンテナは、何段積むか指示する

作物名 トマト

作業名 調製作業(個選用スタンドバック※詰め)

服装 作業服、軍手、帽子

※農協や出荷組合の選果物へ出荷できない小ぶりなものはサイズや品質ごとに仕分けする。
このうち、75g以上のトマトは、スタンドバックに詰めて出荷(個別選果)する。

(取材協力:岐阜県就農支援センター)

玉の仕分け



- ①コンテナからトマトをすべて作業台の上に出す
- ②作業台に出したトマトを1個ずつ秤で計量する
- ③75g以上のものを選別する
- ④選別したトマトはさらに色味ごとに分ける

障がい者が
作業する際の
留意点

- ・秤は、アナログ針のものを使用し、75gに目印をつける
- ・色味による選別は、カラーチャートのような色見本表などを準備し、作業台に貼るなどの工夫が必要

計量



- ⑤同じ色味のトマトを、1個ずつ合計610gを超えるまで秤に載せる
(スタンドバックは、6~8個で610g程度になるようにする)

障がい者が
作業する際の
留意点

- ・秤の610gの所に目印をつける
- ・秤の台にテープなどで8個の円を示しておき、そこにトマトをのせるようにする

スタンドバック詰め



- ⑥秤の上に載っているトマトを一個ずつ丁寧にスタンドバックの中に入れる
- ⑦トマトを入れたスタンドバックは、作業台に置いておく

障がい者が
作業する際の
留意点

- ・スタンドバックに詰めるとき、トマトのヘタを下に詰めていくように指示する
- ・底が安定するようにすき間なく入れるように指示する
- ・作業台にスタンドバックを置く目印をつける

コンテナ詰め



- ⑧空のコンテナにトマトが入ったスタンドバックを10袋並べて入れる
(10袋は、コンテナの長い方にそれぞれ4袋並べ、その間(真ん中)に2袋を置く)
- ⑨10袋入ったコンテナは、指定場所へ運び、積む

障がい者が
作業する際の
留意点

- ・コンテナ内に10の区画を仕切り板で仕切っておく工夫も必要
- ・指定場所が分かるように、床にカラーテープなどで目印をつける
- ・コンテナは、何段積むか指示をする

作物名 いちご 作業名 収穫作業

服装 作業服、帽子



(取材協力: JA全農岐阜いちご新規就農者研修所)

準備



- ①収穫用トレイが直接地面に触れないように、作業場にパレットなどで台をつくり指定場所とし、収穫したいちごの集積場所とする
- ②収穫用トレイ1個につき1枚ずつクッションシートを敷き、指定場所に積む

障がい者が作業する際の留意点

- ・指定場所が分かるように、カラーテープなどで目印をつける
- ・トレイを積む際は、何段積むか指示をする
(収穫用トレイは色分けされていて、色を交互に積むことにより、いちごがつぶれないようになっている)

摘み取り



- ③指定場所からクッションシートを敷いた収穫用トレイを1個取る
- ④収穫用トレイを片手で持ちながら、収穫するいちごの色味で判断する
- ⑤収穫する際は、いちごになるべく触れないよう、指で挟んでいちごを軽く持ち上げ、ヘタをひねるように引きながら摘む

障がい者が作業する際の留意点

- ・時期により、収穫するいちごの色味の適期があるので、その都度、カラーチャートのような色見本表などを準備して首にかけようにする
- ・毎回色の指示が必要

トレイに並べる



- ⑥摘んだいちごを、持っている収穫用トレイに、直接いちごが重ならないように向きをそろえて並べる

障がい者が作業する際の留意点

- ・収穫用トレイにいちごの絵や写真などを貼り、並べる向きが分かるようにする
- ・収穫用トレイに並べるとき、大きさもそろえて並べることができるとう製作業がやりやすくなる

集積



- ⑦収穫用トレイにいちごを1段並べたら、指定場所に積む

障がい者が作業する際の留意点

- ・指定場所が分かるよう目印をつける
- ・トレイを何段積むか指示をする

保管

- ⑧収穫が終了したら、指定場所に集めたトレイを、台車で予冷庫に運ぶ

作業準備



- ①両手をアルコール消毒する
- ②使用器具※をすべてアルコールスプレーで消毒する
※使用器具は、土詰め器、上板、バットケース等

障がい者が作業する際の留意点

- ・アルコールスプレーは器具にまんべんなくかけること、また、押す回数を指示する
- ・消毒した器具や資材等は、指定場所に置き、地面に直接置かないよう指示する

ポット並べ



- ③土詰め器の枠に、ポットを一つずつ並べる
- ④ポットを土詰め器に全部並べ終わったら、その上に穴の空いた上板をのせる

障がい者が作業する際の留意点

- ・上板を載せる前に、土詰め器の枠に全部並べ終わった時点で枠にポットが1つずつ入っているか確認する方法(例:指でポットの縁をつまんで確認するなど)を指示する
- ・上板の載せる向き(縦横)が分かるよう目印をつける

土詰め



- ⑤上板が隠れるくらいまで土を入れる
- ⑥両手で土を平らにならし、上板の穴から土をその下のポットへ詰める
- ⑦ポットの土は両手で押さえてきっちり詰める
- ⑧土が均等に詰まったら、両手で上板を外す
- ⑨外した上板は指定場所へ置く

障がい者が作業する際の留意点

- ・土が入った容器や上板の置き場所が分かるように目印をしておく
- ・ポットへの土の詰め具合がどの程度なのか、手で触らせるなどして土の硬さを指示する

バットケースへ並べる



- ⑩土が詰まったポットを、土詰め器から一つずつポットの端を両手で持って取り出し、バットケースに並べる(横5個、縦7個)
- ⑪ポットの上にはみ出した土はポットの上から再度押し詰める
- ⑫ポットを並べ終えたバットケースは、指定場所へ運び、積む

障がい者が作業する際の留意点

- ・バットケースには、横5列縦7列のマスを引いておく
- ・指定場所や積む段数を指示する

作物名 **ほうれんそう** 作業名 **調製作業**

服 装 **作業服、ビニール手袋、帽子**

(取材協力: 飛騨蔬菜出荷組合ほうれんそう部会長)



収 穫

- ①ほうれんそうを、収穫機または、鎌で刈る
- ②刈り取ったほうれんそうは、コンテナに詰め、濡れたムシロをかけ、作業場にある予冷庫に保管する



準 備



- ①予冷庫に保存している、ほうれんそうが入ったコンテナを、作業台のそばへ一つずつ運ぶ
- ②ほうれんそうを、コンテナから両手で一抱え持ち、作業台に根を手前に向けて積む
- ③作業台の下に廃棄葉を入れるコンテナを置く

障がい者が作業する際の留意点

- ・作業台にのせる量は、作業がしやすい量でよいが、具体的にどれくらいか示す
- ・コンテナを置く場所、ほうれんそうを置く場所に目印をつける

下葉かき



- ④作業台にあるほうれんそうを一株ずつ取り、逆さにして持って下葉と出荷に適さない葉(折れ葉、傷んだ葉)を取り除く
- ⑤同じ葉長の株を長さ(規格)ごとに指定の位置に向きを揃えて積み上げる
- ⑥除去した葉は作業台下の廃棄用コンテナに入れる

障がい者が作業する際の留意点

- ・規格が判別できるよう、作業台に定規に色をつけたものを設置する
- ・規格ごとの指定の位置がわかるよう、作業台に目印をつける

選 別



- ⑦下葉等を取ったほうれんそうを規格ごとに、親指と中指でつかめる太さの束にする
- ⑧ほうれんそうの根をハサミで5mm程度に切りそろえる
- ⑨タオルで株元の泥を拭き落とす

障がい者が作業する際の留意点

- ・5mm程度を示す基準の物を用意する(ハサミの先端5mmにマジックで印をつけるなどの工夫)
- ・ハサミを置く場所を決めておく
- ・下葉等を取ったほうれんそうは、計量するので、親指と中指でつかめる程度の量とする

計量



- ⑩束の重さを計り、190g～205gの範囲になるように、ほうれんそうの量を調節する
- ⑪重量を確認した束は他の束と混じらないようにベルトコンベアに載せる

障がい者が作業する際の留意点

- ・秤はアナログ針を使用し190gの所、205gの所に印をつけ、この間になるよう計量すると指示をする
- ・ベルトコンベアには、規格ごとに目印をつける
- ・ベルトコンベアに載せるとき、束が混ざらないように縦置き、横置きと交互に重ねるなどの方法もある

袋詰め



- ⑫ベルトコンベアを動かし、包装機に規格ごとに一束ずつ入れる

障がい者が作業する際の留意点

- ・包装機に入れる向きを間違えないよう、絵や写真などで図示する

箱詰め



- ⑬出荷箱を組み立てる
- ⑭袋詰めされたほうれんそうを20袋ずつ箱に詰める

障がい者が作業する際の留意点

- ・一定方向に何束ずつ並べ、何段まで重ねるかなどの詰め方のルールを図示する
- ・箱に詰める時は、同じ規格の袋詰めされたほうれんそうを詰めるよう指示する

梱包(機械使用)・出荷



- ⑮ほうれんそうを詰めた箱の上の蓋を閉じ、手で押さえながら機械に通し、梱包する
- ⑯箱を、指定の場所に規格別に分けて積む

障がい者が作業する際の留意点

- ・指定場所、規格別がわかるよう目印をする
- ・積み上げる数は指示が必要
- ・積み上げる際の箱の向きを間違えないよう、図示する

作物名 菌床シイタケ
服 装 作業服、キャップ

作業名 調製作業

(取材協力:株式会社 TFF ひなたぼっこ園)



準備



- ①シイタケの石づきが汚い場合は、汚れをハサミで切りとる
- ②傘にゴミがついている場合は、傘の上から軽くたたいて落とす

障がい者が
作業する際の
留意点

- ・汚れの基準を写真などで図示し、作業台に貼る
- ・ハサミを置く場所を分かるようにする

計量



- ③収穫したシイタケを、秤の上に置いたトレイに、まず横2つずつ一面に並べ、規定重量になるまで真ん中にシイタケを置いて重さを調整する
- ④トレイをコンテナに並べる
- ⑤コンテナがいっぱいになったら、包装機の横まで運ぶ

障がい者が
作業する際の
留意点

- ・秤は、アナログ針を使用し、規定の重量に印をつける
- ・コンテナにトレイがどれだけ並んだら包装機へ運ぶか指示する
- ・コンテナには、トレイの置く向きが分かるよう目印をつける

ラップ掛け



- ⑥ラップ包装機の上に重量を測ったトレイを載せる
- ⑦両手でラップの端を持ち、奥から手前に引っ張り、カッター部分で切断する
- ⑧ラップをトレイの底で止め、両端のラップも底へ巻き込んで止める
- ⑨ラップをまいたトレイは包装機の横のコンテナへ戻して並べる

障がい者が
作業する際の
留意点

- ・包装機には、トレイを載せる位置が分かるように目印をつける

シール貼り



- ⑩ラップの上から所定の場所にシールを一枚ずつ貼る

障がい者が
作業する際の
留意点

- ・シールを貼る位置や向きを具体的に指示する(シール大の穴をあけたあて紙を用いて貼る位置を示す方法もある)



ナブテスコリンク株式会社

所在地 垂井町府中

栽培品目 いちご、トマト、ジャガイモ等

障がい者数 9名(身体・知的・精神)

※障がい者の雇用に特別の配慮をした子会社。一定の要件を満たす場合、子会社で雇用している障がい者を親会社に合算して、雇用率を算定できる。



イチゴハウス内での管理作業

◎お互いを思いやる職場、健常者と障がい者がともに働きやすい職場づくりをめざして

機械メーカーのナブテスコ株式会社が平成27年に設立した特例子会社*で、業務内容は主に、農業とグループ企業からの名刺印刷作業や文書電子化等の事務作業を行っています。会社で生産された農作物は、工場内の社員食堂で食材として使用しているほか、工場や地元の直売所で販売しています。

会社には、ジョブコーチの資格を取得したスタッフが常駐し、日頃から言葉の使い方や物事の伝え方などに注意しています。例えば、ある知的障がいがある社員に夏場は適度に水分補給するよう言葉で伝えても「自分の

お茶がもったいない」「脱水症状的感覚がない」と言って水分を取ろうとはせず、黙々と働いていました。障がい者に思いを伝えて、物事を進めるには、状況をよく観察したうえで、より噛み砕いた指示を出したり、サポートしたりすることが必要であり、これは他のどの仕事にも通じるものがあります。

今では、障がいがある社員も農機具の安全な使用方法を身につけ、各自が一人で機具を扱えるようになっていきます。また、栽培管理だけでなく、農産物販売にも取り組むことで、生産する喜びとそれを買ってもらう喜びを体感でき、意欲的に取り組む姿が見られるようになってきました。今後、社内販売以外の比率を増やし、さらに農産物の売上を増やしていきたいと担当者は語ります。

三宝化学工業株式会社揖斐川食品事業所

所在地 揖斐川町島

栽培品目 モヤシ

障がい者数 1名(身体知的)



◎根気よく話しかけながら思いをくみ取る努力を

昭和22年創業の無機化学品メーカーで、昭和55年に食品部門を立ち上げました。水の豊かな揖斐川町でモヤシの栽培を開始し、地元スーパーや市場に出荷しています。

平成29年4月、特別支援学校の企業実習がきっかけで障がい者の受入を始めました。栽培室で大きなフォークを使ってモヤシの掻き出し作業を担当してもらっています。同社の生産体制は365日、従業員のシフトや働き方も様々なため、障がいも個性として普通に受け入れている社員がほとんどです。特別な対応というものはありませんが、口数が少なく、思いをうまく表現できない部分もあるため、西濃障がい者就業・生活支援センターとも連携して、根気よく話しかけながら思いをくみ取る努力を続けています。

今では、作業のコツもつかんで上手に仕事をこなしており、体力仕



モヤシの掻き出しは体力仕事

事ではありますが、忍耐強く作業してくれています。毎日のミーティングでは、少しずつ業務の進捗状況を発言する姿も見られ、成長を感じています。今後、モヤシの掻き出し作業だけでなく、栽培室の洗浄や機械メンテナンス、包装作業など無理のない範囲で少しずつ業務の幅を広げていけたらよいと会社の方は語ります。

株式会社飛騨高山きのこの里

所在地 高山市冬頭町

栽培品目 菌床シイタケ

障がい者数 1名(知的)



毎日コツコツと働いてくれています、と社長

◎健常者に全く劣らない仕事への姿勢

従来より、農閑期に菌床シイタケ栽培を行っていましたが、今から7年前の平成23年に周年栽培へと転換しました。

平成29年4月、特別支援学校の企業実習がきっかけで、障がい者の受け入れを始めました。主に、シイタケの収穫作業とブロックの水の入れ替えなどの管理作業を担当しており、コツコツと懸命に働く姿は健常者に劣りません。

飛騨地域は、特に人材不足が顕著になってきており、そういった中で障がいのある方もその特性に応じて働く場が提供できれば、貴重な戦力になります。まずは、特別支援学校の企業実習を受け入れるなどして障がい者の方と接する機会を持ち、より多くの人のお考え方が変わっていけばよいと社長は語ります。



収穫作業は一人で取りこぼしなくできる

株式会社アグリピア

所在地 海津市南濃町

形態 障がい者施設

栽培品目 水耕栽培(小松菜、サンチュなど)

利用者数 13名



◎「農業」も見る角度を変えれば、素晴らしい「場」になる

平成23年に水耕栽培を営む会社を設立し、翌年に就労継続支援B型事業所の認可を受けました。主力の小松菜はピーク時で収穫量が月3トンにもなり、有名レストランやコンビニ等に出荷しています。また、水菜やレタス、ワサビ菜、カラシ菜等数十種類のサラダ系の葉物野菜を詰めたミックスサラダセットも好評をいただいている商品です。

2S(整理整頓)の習慣を身につければ、一般就労など他の職場へ行ってもきっと役に立つはずだという社長の信念により、ハウス内は2Sを徹底し、農機具等は地面に直接おいてよいものとならないものをテープの色で区別し、視覚で分かりやすい工夫をしています。また、様々な位置に番号を振ることで利用者の作業の見える化につなげています。利用者は、和気あいあいとした雰囲気の中、農作業に従事しており、表情は一生懸命に生きています。さらに農業という職業は、体を動かす作業のため、夜ぐっすり眠れるようになり、生活リズムの安定にもつながります。



調製作業も最初は失敗しても少しずつできるようになる

◎農業と福祉は相性がよい

農業は過酷という見方をされることもありますが、比較的広いスペースで自分のペースで作業ができることから、引きこもりであった利用者也精神的な落ち着きを取り戻しています。農業を通じて、B型事業所としてどれだけ利用者に価値あるサービスを提供できるかを追求し、周囲が制限された安全な世界を作るのではなく、農業など新たな経験をすることが、障がい者個人の将来にとってとても重要なことだと社長は話します。

社会福祉法人たんぽぽ福祉会

所在地 恵那市長島町

形態 障がい者施設

栽培品目 菌床シイタケなど

利用者数 230名



『くりくりの里中津川』の食品加工スタッフ

◎働くことは生きること

昭和54年4月、前身となる恵那たんぽぽ共同作業所を開設しました。以後、「働くことは生きること」を経営理念とし、主に重度の障がい者を200名超受け入れ、全員に農業やパン工房、レストランの運営をはじめ、80種類以上の労働を提供しています。他から軽作業を下請けする外部依存だけではなく、自ら仕事を生み出すことができる農業に価値を見出し、主力の菌床シイタケは年間10万菌床を栽培し、名古屋市場へ出荷しています。福祉事業所や農家向けに菌床ブロックを生産販売も行っています。直径約12～13cmに達する肉厚のシイタケ「天恵菇(てんけいこ)」の栽培は、全国でも珍しい取り組みです。平成26年には、売店・飲食店・食品加工所を併設した多機能型事業所「くりくりの里中津川」を開業し、1次・2次・3次産業の各ステージで働く場を提供するなど、利用者が様々な形で働くことができる仕組みを作り上げています。

お客さまにとって、福祉が運営しているかどうかは関係ありま



天恵菇の収穫
気温が低いうちに素早く収穫する



A品からC品までの仕分け作業もマスター

せん。あくまでお客さまの好むものを提供するため、2回目以降も訪れたいと思ってもらうために日々、努力を重ねています。この利用者は皆、顔をあげていきいきとしています。利用者の皆さんは、障害年金と自ら働いて得た給料でより多くの社会の仕組みを学びます。障がい者の人間性を育て、高めていくためには、働く経験が必要であり、働くことで生活が豊かになります。転ばないように先に手を出し、口を出してしまうと自分で判断する機会を奪ってしまいます。失敗できる環境を作っておけることも大切だと理事長は話します。

支援機関一覧

◎障がい者の就業・日常生活に関する相談

所 属	連絡先	対象地区
岐阜障がい者就業・生活支援センター	(福)岐阜市社会福祉事業団 TEL.058-253-1388	岐阜市(長良川以南)、羽島市、瑞穂市、笠松町、岐南町、北方町
清流障がい者就業・生活支援センターふなぶせ	(福)舟伏 TEL.058-215-8248	岐阜市(長良川以北)、各務原市、山県市、本巣市
西濃障がい者就業・生活支援センター	(福)あゆみの家 TEL.0584-22-5861	大垣市、海津市、養老町、垂井町、関ヶ原町、神戸町、輪之内町、安八町、揖斐川町、大野町、池田町
ひまわりの丘障害者就業・生活支援センター	(福)岐阜県福祉事業団 TEL.0575-24-5880	関市、美濃市、美濃加茂市、可児市、郡上市、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村、御嵩町
東濃障がい者就業・生活支援センターサテライト	(福)陶技学園 TEL.0572-26-9721	多治見市、土岐市、瑞浪市、恵那市、中津川市
ひだ障がい者就業・生活支援センターぷりずむ	(福)飛騨慈光会 TEL.0577-32-8736	飛騨市、高山市、下呂市、白川村

◎障がい者の求人・求職支援

ハローワーク	連絡先(TEL)
岐 阜	058-247-3211
大 垣	0584-73-8609
揖 斐	0585-22-0149
関	0575-22-3223
岐阜八幡	0575-65-3108
美濃加茂	0574-25-2178
多 治 見	0572-22-3381
恵 那	0573-26-1341
中 津 川	0573-66-1337
高 山	0577-32-1144

◎農業技術についての相談(農林事務所農業普及課)

農林事務所	連絡先(TEL)
岐 阜	OKBふれあい会館 058-213-7401(直通)
西 濃	西濃総合庁舎 0584-73-1111(代表)
揖 斐	揖斐総合庁舎 0585-23-1111(代表)
中 濃	中濃総合庁舎 0575-33-4011(代表)
郡 上	郡上総合庁舎 0575-67-1111(代表)
可 茂	可茂総合庁舎 0574-25-3111(代表)
東 濃	東濃西部総合庁舎 0572-23-1111(代表)
恵 那	恵那総合庁舎 0573-26-1111(代表)
下 呂	下呂総合庁舎 0576-52-3111(代表)
飛 騨	飛騨総合庁舎 0577-33-1111(代表)

◎障がい者就労に取り組む福祉施設・事業所の生産・販路活動の支援

社会福祉法人岐阜県社会福祉協議会(県セルフ支援センター) TEL.058-273-1111(代表)

◎障がい者の就業に関する相談

岐阜県障がい者雇用企業支援センター TEL.058-215-0582

◎県・行政窓口

農政部農業経営課 TEL.058-272-8421
健康福祉部障害福祉課 TEL.058-272-8309
商工労働部労働雇用課 TEL.058-272-8397

◎ワンストップ総合窓口

(一社)岐阜県農畜産公社(ぎふアグリチャレンジ支援センター)
〒501-8384 岐阜市藪田南5-14-12 岐阜県シンクタンク庁舎
URL <http://www.gifu-notiku.com/>

障がい者施設の農業参入、経営相談(経営支援課)
TEL.058-215-1550/FAX.058-276-1268
農作業受委託のマッチング(農福連携推進室)
TEL.058-215-1503/FAX.058-276-1268



参考資料

農業分野における障害者就労マニュアル(農林水産省経営局、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所)、障がいのある方への配慮マニュアル(岐阜県)、岐阜県障がい者雇用事例集(県障がい者雇用企業支援センター)